

平成26年度 堺市障害者自立支援協議会 第7回 障害当事者部会

議事概要

日時	平成26年10月22日(水) 14:00~16:00
場所	堺市総合福祉会館 5階 第2研修室
出席者 (敬称略)	茅原、白石、辻本、帛田、野崎、佐野、川淵、松本、丸野、梅田、前田、吉村
欠席者 (敬称略)	谷口、三田
ゲスト参加 (敬称略)	【さかいハッタツ友の会】石橋、和田、仲山 【発達障害者支援センター】阪口、篠原
支援者	ボランティア1名
事務局	【堺市障害施策推進課】森、加唐、杉本
事務局補助	【総合相談情報センター】黒木、上田、小出
傍聴	1名

● 堺市発達障害者支援センターとの交流会

- ・ゲスト及び当事者部会委員の自己紹介を行った。

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- ・資料に沿って、「発達障害の理解と私たちの活動」について説明がなされた。
- ・発達障害とは、「発達凸凹(できることとできないことの差が大きい、個人の性格など)」と、「適応障害(職場などの環境に合っていない)」とが、足し算されたものとして、我々は考えています。つまり適応障害がなく、運良く環境に馴染めていたら厳密に言えば発達障害ではないという考え方をしています。
- ・発達障害の診断が曖昧な部分もあり、心療内科医が主観で診断するので、「あなたはグレー。」と言われることがあります。「発達障害っぽいけど、発達障害かと言われるば、そうでもない。健常かと言えば、そうでもない。」のように「グレーと診断された方」のケアを、どうするのが今問題となっているところです。
- ・一番きついのは就職活動です。特にアスペルガー症候群の方は、面接で苦しい思いをします。面接は、一瞬で判断し、適切な回答をしなければいけない。勉強が良くできる人も多いが、社会人になると人間関係がうまくいかない。電話はとれてもメモできない。「あることは出来るけど、あることは出来ない」など、非常にアンバランスです。企業側から、使いにくいと判断されることも多い。
- ・我々は、3年前から南区で活動を始めた。人数が多くなると話せなくなるので6つの分かれて、色々な場所・時間帯で自助会を開催しています。

【意見交換】

【当事者部会委員から】

- ・子どもの時は、「自分が発達障害ではないか」というのは自分では気づきにくい。親が子

どもをお医者さんのところに連れて行き、「グレー」と診断された場合には、自分も周りも気付かず、大人になってしまう。障害者手帳を取得できる人でできない人がいるのですか？

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- はい。A先生には、「グレー」と診断されて障害者手帳の取得は無理と言われたが、B先生では、「ADHD」と診断されて障害者手帳の取得されることが良くある。

【当事者部会委員から】

- 障害の等級も違ってくるのですか？

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- 堺市の精神障害の場合は2か3級。重複の場合だと1級のこともある。生活が困難にならないと1級とはならない。しかし我々は、身体機能的には、ほぼ問題ないので1級までは認められないことが圧倒的に多い。
- 子供の頃に多動と衝動性があっても、中学生くらいになって急に自分を押さえられるようになって、軽減されることもあり、子供の場合は成長によってかなり変化する。
- 発達障害という言葉が最近になって聞いた。昭和の時代に自分気付かない、親も周りも気付かないで大人になった方も多いと思う。
- 私が知ったのは30年以上前です。子どもに同じように教えていても、できない子がいる。先生方も悩まれていた。色々調べていくと「学習障害」に行き着いたが、「学習障害」だけでは解決しなくて、「多動性」「自閉症」「アスペルガー症候群」などが出てきた。それをまとめて今は、発達障害と呼んでいる。本来は一つ一つ分けて貰った方が良く思っている。

【当事者部会委員から】

- 発達障害は、子どもの時には分からず、大人になって分かることが多いのですか？

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- 最近は半々かと思えます。発達障害支援法が出来て10年です。それまでは、見つかるとしたら知的障害に含められていた。一生涯気付かない人もいます。就職しても適応できなくて、うつ病が発症し、詳しく調べてみると「発達障害でした」というケースは多い。

【当事者部会委員から】

- 就職しても、そのようになってしまうのは怖いなあと思う。誰に助けを求めていいのかわからない。

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- 11月30日に、発達障害者の就労支援の実情についてフォーラムを協働開催し、就労支援に携わってくださる方にも参加して貰って、「どうやったら就職できるのか」「どうゆうふうに来てもらったら助けることができるのか」「経営者側からどういう支援をしたら良いか」など話しあいます。

【当事者部会委員から】

- 暴力とか、会社で何か言われたりすると発達障害になりやすいんですか？

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- 何か言われて発達障害になるというよりも、発達障害のベースがあって、何か言われた

ことをキッカケに、ボーンとなってしまうという感じです。いわゆる適応障害です。

【当事者部会委員から】

- 「さかいハッタツ友の会」に参加されている方は、どれくらい就労されている方がおられるのでしょうか？また、参加者は、どんな形（決まり）で話し合っているのか聞かせて欲しいです。

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- さかいハッタツ友の会の参加の就労率は半分です。そのうち一般就労と障害者雇用が半々です。
- 自分の特性を理解した上で、職業の合う合わないをマッチさせていく必要がある。それは健常者の方と一緒に、自分の持った能力と合う職業に一回で会うことは余りない。5、6回は転職しないと本人が気付かないかも知れない。合わない職場で無理に続けていても良い効果は出ない。別のところにおいて、合うところを探す方が良いし、早い。その方がお互いにストレスが低い。落ち込んだ気持ちになったら、自助グループに参加し、皆に励まして合って、また立ち上がって貰う。
- 自助グループでは、「どうせ自分は…」「どうせ発達障害やし」というのは止めよう。「どれだけ失敗してもいいから自己肯定感だけは下げないようにしよう」と言っている。

【当事者部会委員から】

- 発達障害の人が、トラブルに合い転職を繰り返している間に、障害の程度が重くなったりしないんですか？

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- もちろんあります。しかし厳密には、発達障害の特性が酷くなるというよりは、発達障害の2次障害で出てきた「うつ病」「パニック」などが悪化するというはあります。ただ、自助グループで話をして、心の底を出して貰えると楽になります。
- まず自分のことを伝えられない。我慢して爆発することもある。発達障害の人は孤立しがちです。コミュニケーションのトレーニングも兼ねてさかいハッタツ友の会に来て貰っている。

【当事者部会委員から】

- 発達障害者支援センターの職員の方も来て貰っているので、お聞きしたいのですが、自助グループでは、自分達で出来ること出来ない事などを分かち合いながら、お互いを高めていっている。支援センター側では、そういう「生活のしづらさ」や「社会との障壁」がある中で、どういうことを理念に今後活動されるのでしょうか？

【発達障害者支援センターから】

- 質の高い生活を目指して貰いたい。発達障害の人は、特性上分かりにくい、伝わりにくいんです。話さないと分かっていただきにくい。今年の4月から法人が変わって、月1回話合いの場を持っていて、一緒に夢を持って考え語りあっています。例えば、発達障害の人が堺市で何処に行けばいいのか、生活していく中でどんな所を利用したら上手く生活して行けるのかなど探し出しているところです。自助グループに繋がっていきにくい人が、支援センターに沢山いる。孤立してしまっている。自己肯定感下がっている人や、家にこもっている人多い。支援センターに来られない発達障害の人多いんです。そんな人達がセンターに来られる機会を少しでも多く作りたい。
- 相談に来られた人で「何処に相談したら良いのか分からなかった」との意見が多かった。

当事者だけでなく家族からの相談もある。上手く生活していけるように繋げて、良い支援をしていきたい。ネットワークづくりを一番に掲げていきたい。

- ・我々も他の障害のある人と共に市民権を得たいと思っている。

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- ・少しずつ単発で支援をしている団体、機関はある。例えば、知的障害と精神障害をやっ
ていて、ついでに発達障害も支援している事業所など。繋げていくようなことできたら、
もう少し点ではなくて面でサポートができるかと思う。支援センターには旗役を行って
欲しいなあと思います

【当事者部会委員から】

- ・自閉症の家族が居て、昔は荒れていた時期もあったが、今は年齢を重ねたことや環境な
ど色んなことによって落ち着いて、その人らしく生きることが出来ている。

【さかいハッタツ友の会メンバーから】

- ・おっしゃる通りで、年齢を重ねると社会的スキルが身に付いたりしますし、自分にあっ
た環境に入れたら、とても幸せです。

● ブログについて

- ・ブログの画面をプロジェクターで映し、確認された。
- ・今後、9月の堺市選挙管理委員会と会議の様子と今日の交流会の様子を掲載予定。
(さかいハッタツ友の会メンバー了承済み)

● フリートーク

【前田部会長から】

- ・フリートークとしていたが、懸案事項があるので2テーマを取り上げたい。

(1) 堺市長との交流会について

【事務局から】

- ・資料に沿って説明された。
- ・今回は、来年度の予定として「市長との交流イベント」を担当している部署に申し込む
ため交流イベントの種類と開催時期を決めていただきたい。
- ・注意事項として、市長の了承が必要なため、絶対に開催されるという保証はないこと、
普段の悩みを話すのは良いが要望の場ではないこと。

【意見交換】

- ・出来るだけ早く行いたい。春先から夏頃まで。
- ・「ふれあいトーク」と「元気！いきいき訪問」との中間あたりをイメージしていた。
- ・「ふれあいトーク」では、「こちらから出向いてお話しする」ので、市長にとっては、「障
害のある人が集まって来られた」というイメージしか残らないのでは。「元気！いきい
き訪問」では、「市長に来て貰って、こうゆう場所で月1回集まって当事者部会を行っ
ている」と印象づけることができるのではないかと。
- ・我々が7年間行ってきたことを聞かれると想定して、集約しておく必要があるのでは。
- ・当事者部会の意義を、市長に感じて貰うためには、こっちに来て貰って「継続的行
っていること」を見て貰った方が良いと思う。
- ・見せるものって何があるだろう。物を作っている訳ではないし。

- 聞いて貰えるようなトークをする。「当事者部会」という言葉は聞いているかも知れないが、どんな事をしているかまでは知らないのでは。
 - 「なぜ、今、市長との交流会が必要なのか」が、しっかり決まっていないので、どちらかに揺れているのではないか。任期内に必ずしなければいけないものではないし、急がなくてもいいのでは。要望・陳情などを行わないことが前提であるならば、それに沿ったトーク・ディスカッションを進めていく必要がある。「こちらから申し込んで、市長が来て貰う」と、「市長が見てみたいと興味を持って来てもらう」とのでは差がある。色んな思惑で、市長に会いたいと思っている団体もいると思うが、そこに混ざってしまうのも心外かとも思う。
 - 過去に2、3回、議員さんが自ら要望されて傍聴に来られたことがある。
 - いろんな角度から当事者部会を見て貰いたいと、前から言ってきたこと。
 - 市長が来るということで、何か特別なことはしないで、「7年前から、普段からこんな活動しているよ」という様子を見て貰えばいいのではないか。時間があれば残ってくればというスタンスで良いのではないか。
- ⇒【結果】交流イベントの種類は、「元気！いきいき訪問」とし、開催時期の第一候補は「春」、第二候補は「夏」として申込みをおこなう。内容については、今度検討していく。

(2) 11月のテーマ「相談支援関係者との勉強会」について

【前田部会長から】

- ゲストは「しんしょうれん 駒氏」、「堺区基幹相談支援センター 吉村氏」、「中区基幹相談支援センター 奥田氏」をお招きする予定。内容を詰めていきたい。

【意見交換】

- 今の相談支援の仕組みを皆に知って欲しい。当事者側からの考えや要望なども伝えられれば。

⇒11月のテーマは、前半はフリートークとし、今回話せなかったことを話して貰う。後半を、「相談支援関係者との勉強会」とする。内容は上記のとおり。

● その他

【事務局補助から】

- 昨年に引き続き、12月11日（木）に、堺区障害者自立支援協議会で、に当事者交流会を開催します。堺区の作業所にも声かけしていますので、もしかしてこちらから声が掛るかもしれません。昨年も当事者部会から何名か出席して貰っていますので、募集させていただこうと思います。締切は11月19日（水）となっていますが、11月の当事者部会の時に、出席希望の方はご連絡ください。

【事務局から】

- 第2回 当事者部会『第4次堺市障害者長期計画「わかりやすい版」プロジェクトチーム』の開催日について、10月29日（水）13：30～16：30 堺市役所本館 6階 大会議室Bとなっています。

● 次回 障害当事者部会

- 11月26日（水）14：00～16：00 堺市総合福祉会館 5階 第2研修室